

南池袋二丁目C地区まちづくり 全体連絡会だより No.1

平成22年
6月

発行：豊島区都市整備部都市再生プロジェクト担当課 03-3981-3449(直通)

平成22年6月21日(月)

C地区第1回全体連絡会 を開催！

昨年度、ゾーン別に小規模な懇談会を実施したところ、まちづくりに対して活発な意見交換をすることができました。そこで、今年度も、自由な意見交換の場として「ゾーン別小規模懇談会」と、情報共有の場として「全体連絡会」を設け、皆さんと活発にまちづくりのあり方を考えていきたいと思えます。

今回は、C地区の第1回全体連絡会を開催しましたので、その概要をお知らせします。



■場所：旧日出小学校 1階 レクルーム 1

■参加者数：31名

■内容：

1. 周辺まちづくりの状況・ワークショップ型ゾーン別まちづくり懇談会の説明 (区から)

(1) A地区の状況：今年4月、東京都に「事業計画」の認可申請をしました。

現在、東京都で皆さんから寄せられたご意見を審査中です。東京都から認可が下りしだい、区内全域で、新庁舎説明会を実施する予定です。時期は追ってお知らせします。

(2) 6月27・28日に、東京都が、「環状5の1号線」に関する都市計画変更素案の説明会を行いました。21日のC地区全体連絡会でも事前に説明会チラシをお配りしました。

(3) 今年度は、ワークショップ型「小規模懇談会」と、ゾーン間の情報共有の場としての「全体連絡会」で活動を進めていきます。また、デザインステージ(コンサルタント)に加え、UR都市機構も、まちづくりアドバイザーとして協力してもらいながら、まちづくりを進めます。

2. 今年度のまちづくり活動スケジュールとワークショップの説明

(デザインステージから)

今年度は、住民の皆さんが、自ら手を動かし、議論し、考えを共有できる井戸端会議のようなワークショップ形式で、まちづくりの活動を進めていきたいと思えます。

進行方法については、必ずしもスケジュール通りでなくともかまいません。皆さんが納得しながら進めてもらえるよう柔軟に対応します。また、今年度のワークショップでは住民の方々が主体



となり、話し合ってもらおうため、区はほとんど口を出さないでいるつもりです。

(区)

3. UR都市機構から

駐車場の敷地は、昨年取得し、今年11月頃に引き渡される予定です。それ以外の土地は取得しておりません。

この土地は、当面、開発には着手せず、駐車場として暫定利用します。それまでの間、一地権者として皆さんとともに、より良いまちづくりを検討していきたいと思っています。

4. 質疑応答

Q：URが土地を取得しましたが、今後UR主体でまちづくりをすすめるのですか？

A：あくまで地域の方々が主体です。URは一地権者にすぎません。今年度は、小規模懇談会でワークショップを開催し、丁寧に皆さんのご意見を伺い、全体連絡会で情報を共有します。

全体で開発した場合、個別で建て替えた場合など、それぞれのメリット・デメリットを考え、まちづくりの考えを深めていきたいと思えます。

(区)

Q：まちづくりのメリット・デメリットとはどういう意味ですか？

A：例えば再開発をするとした場合、メリットとしては、自己負担があまりかからないで建て替えできますが、デメリットとしては、マンション住まいになると管理費や駐車場代がかかってしまうということもあります。また、個人的なメリット・デメリットだけでなく、「まち」としての課題をどうするかという問題もあります。私たちの子どもや孫の世代のため、緑や広場のある、燃えない安全・安心なまちにすることが、長い目でみればメリットになります。いろいろな考え方があると思いますので、ぜひ、ワークショップで議論したいと思います。(区)

Q：URがまちづくりに参加するそうですが、その姿勢が明確でないと思います。URは国の税金を使う団体で「事業仕分対象団体」にもなっています。小さい規模の敷地なのに、なぜURが関わるのですか？

A：国の事業仕分けの中では、URが行う都市再生については「必要」と判断されました。都市再生とは、例えば、東京の中で副都心と位置づけられている池袋において防災や環境面などで整備が立ち遅れている部分のまちづくりのお手伝いをすることです。現在、東池袋四丁目第2地区の再開発も担当しています。このようなことから、URは池袋副都心をまちづくり重点エリアと考えています。また、皆さんの生活再建も非常に重要と考えています。皆さんのご意見や行政の意見、全体の流れでどのようなものが一番良いかを時間をかけて議論していくなかで、URとしても、より良い提案をしていきたいと思っています。(UR)

Q：区は「池袋副都心グランドビジョン」など、区民にほとんど説明もせず勝手にイメージを膨らませ、良いところだけを強調しています。そして、国の補助金などをあてにして事業を進め、お金のない住民を追い出そうとしています。また、区は区民の財産である区有地をどんどん売却しています。この日出小学校跡地のような大きな土地は、もう簡単には確保できませんから、将来を見越して残しておくべきです。それに、「ワークショップ」とは何なのかよくわかりません。住民どうしの井戸端会議のような話し合いが必要であって、区と住民がいくら話し合っても住民は本音を言えないのではないのでしょうか。

A：豊島区は日本一人口密度が高く、緑や空地も少ない地区です。そのような中で、人と環境に優しい副都心をつくろうと将来像をお示ししたのが「池袋副都心グランドビジョン」です。

本区は戦災でほとんど焼けてしまいましたが、駅前を除き、区画整理

がされないまま今のような街ができてしまった経緯があります。そのため、狭い道路が残り、防災上課題のある地域になっています。また、このような地区で空地を生み出し、道路を拡幅し、まちの不燃化や緑化を進めるためには、共同化もやむを得ないのではないのでしょうか。国や都が政策として、ある程度共同化した良好なまちづくりに対し、補助金を出しているのはそのような理由からです。

ご指摘のように学校跡地は貴重な財産です。この日出小跡地も、再開発により区民の皆さんにご負担をかけずに新庁舎の床に変換するもので、売却するものではありません。区財政が危機的状況にあったときに、一部区有地を売却した経緯もありましたが、区有地は区民の皆さんのために有効活用しています。たとえば、千川小跡地では特養ホーム整備を、平和小跡地では区民のための複合施設の整備を予定しています。

井戸端会議が一番良いというのは、区としても全く同意見です。ワークショップでは、区やURは積極的に発言しません。井戸端会議的にワークショップを進めていき、皆様のご意見を伺っていきたいと思っています。(区)

Q：会への参加者が限られていて、意向を示してくれない権利者がいます。その方たちの意向が反映されていないのは良くないと思います。また、このまま街づくりが進まないと、取り残されたまちにならないかと不安です。

A：今後も個別訪問などにより、まちづくりへの参加をお願いしていきます。どうしても参加したくないという人に対し無理は言えませんが、今年度は「たより」を、こまめに出していきたいと思っています。皆さんの様々なご意見を丁寧にまとめ、参加できない方々にもお渡しします。また、今年度から、区のホームページでも、南池袋B・C地区のまちづくり活動状況の報告をしたいと思っています。(区)

第1回ワークショップの詳細は、同封のご案内チラシをご覧ください！
また、別紙「まちづくり井戸端会議テーマ募集用紙」についても、ぜひご覧ください。